

<b>水田での単一品種ずらし播きによる加工業務用キャベツの継続的安定生産技術</b>			
<b>【要約】</b>			
寒玉系キャベツの晩生品種‘冬のぼり’を7月中旬～8月上旬に、ずらしながら播種し、株間35cmで定植すると、12月中旬～2月中旬以降に平均球重2kg以上の大玉キャベツを継続収穫することができ、定時定量出荷が可能となる。			
農業技術振興センター・栽培研究部・野菜担当		<b>【実施期間】</b> 平成21年度～平成23年度	
<b>【部会】</b> 農産	<b>【分野】</b> 需要に応える農畜産物づくり	<b>【予算区分】</b> 県単	<b>【成果分類】</b> 普及

### 【背景・ねらい】

一般に加工業務用キャベツは数品種をずらして播種し、継続出荷に対応しているが、天候の影響により、品種によっては収穫時期が重なり、結果、契約数量に満たない品薄時期が発生する場合がある。

そこで、在ほ性の高い寒玉系晩生品種‘冬のぼり’をずらして播種し、平均球重2kg以上の大玉キャベツをほ場に確保しながら、継続的に収穫できる栽培技術を確立する。

### 【成果の内容・特徴】

- ① 単収および適正球重を考慮すると、寒玉系晩生品種‘冬のぼり’の適正株間は35cmである（図1）。
- ② 平均球重2kg以上の大玉キャベツは、7月15日～7月30日の7月中・下旬播種では12月中旬から、8月5日の8月上旬播種では、2月中旬から収穫でき、定時定量出荷が可能となる（図2）。
- ③ 平均球重は、収穫時期が遅くなるほど重くなる（図2）。

### 【成果の活用面・留意点】

- ① 本品種は、在ほ性が高く、8月上中旬播種では、4月中旬まで収穫することができる。
- ② 在ほ期間が長くなると、外葉が傷み、外観品質が低下するので、実需者が求める球重が確保でき次第、収穫する。
- ③ 7月中・下旬に播種し、年明けに収穫すると、平均球重が2.5kg以上の大玉となり、実需者から敬遠される場合があるので注意する。
- ④ 栽培期間の天候によって収穫時期・平均球重に変動が見られる場合がある。

## [具体的データ]

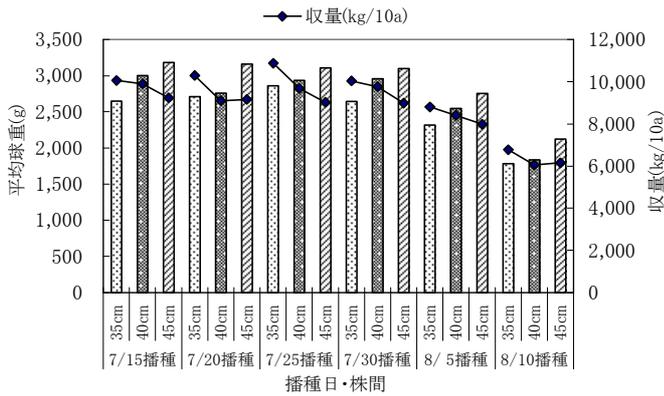


図1 調査期間(12月中旬～2月中旬)を通じた平均球重と予測収量(2010～2011年)

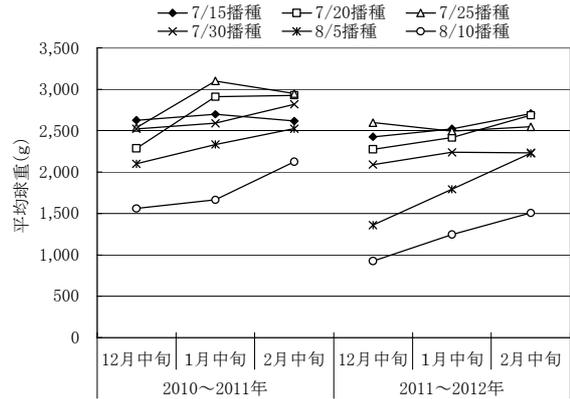


図2 時期ごとの平均球重(2010～2011年、2011～2012年)

- 注 1) 播種：7/15 播種；2010年7月15日、2011年7月15日、7/20 播種；2010年7月20日、2011年7月20日、7/25 播種；2010年7月25日、2011年7月25日、7/30 播種；2010年7月30日、2011年7月31日、8/5 播種；2010年8月5日、2011年8月5日、8/10 播種；2010年8月10日、2011年8月10日、128穴セルトレイでハウス育苗
- 2) 定植：7/15 播種；2010年8月5日、2011年8月4日、7/20 播種；2010年8月10日、2011年8月9日、7/25 播種；2010年8月11日、2011年8月10日、7/30 播種；2010年8月18日、2011年8月18日、8/5 播種；2010年8月24日、2011年8月24日、8/10 播種；2010年8月31日、2011年8月30日
- 3) 栽植密度：畝幅150cm×株間35, 40, 45cm×2条植え(3,800, 3,300, 2,900株/10a)
- 4) 基肥：N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=16.4:16.6:15.1(kg/10a)を定植8日前までに施用
- 5) 追肥：N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=5.3:3.3:4.6(kg/10a)を定植2週間後、4週間後に各施用
- 6) 収穫：12月中旬；2010年12月14日、2011年12月13日、1月中旬；2011年1月11日、2012年1月10日、2月中旬；2011年2月14日、2012年2月10日



図3 播種時期・株間の違いによるキャベツの結球程度(2010年12月14日)

## [その他]

### ・研究課題名

大課題名：需要に応える農畜産物づくりに関する研究

中課題名：園芸作物等の生産振興

小課題名：水田利用野菜省力安定生産技術の確立

### ・研究担当者名：

伊吹久美 (H21)、豊岡幸二 (H21～H23)、福永泰也 (H22～H23)